

# 区政Now！（平成28年4月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

1  
し  
め  
こ  
め



このたび、荒川区における、中学校防災部の創設が「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」においてグランプリを、南千住第二中学校レスキュー部が「防災まちづくり大賞」において日本防火・防災協会長賞を受賞しました。これらは、区民の皆さまとの連携・協力のもとに推進してきた防災の取組が高く評価されたものです。

また、次世代のクリーンエネルギーと期待される水素エネルギーを活用した、自治体初となる業務用燃料電池実証試験機が設置されました。今後も、水素エネルギーを利活用する「水素社会」の実現に向けた取組を推進してまいります。

新年度も、これまで以上に職員一丸となって様々な取組を進めてまいりますので、引き続き、御支援と御協力をお願いいたします。

## ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2016で中学校防災部がグランプリを受賞しました

3月15日、全国各地で開催されている「強靱化（レジリエンス）」の先進的な活動を発掘、評価し、表彰する「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」の表彰式が行われ、応募総数242件の中から、荒川区の「中学校防災部の創設」が、最高の榮譽であるグランプリを受賞しました。



表彰式の様子

中学校防災部は、今後起きるとされる首都直下地震などの災害が発生した時に地域の防災・減災活動に貢献できる「防災ジュニアリーダー」を育成する目的で、平成27年度、区内全ての中学校に設置されました。現在、308人が在籍し、地域の方と協力しながら訓練を行っています。

今後とも、「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に、「防災ジュニアリーダー」の育成に努めてまいります。

## 南千住第二中学校レスキュー部が「第20回防災まちづくり大賞」において日本防火・防災協会長賞を受賞しました

総務省主催の「第20回防災まちづくり大賞」において、南千住第二中学校レスキュー部の「中学校レスキュー部による地域との絆ネットワーク活動」が日本防火・防災協会長賞を受賞しました。「防災まちづくり大賞」とは、地方公共団体等における防災に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災に関する幅広い視点からの効果的な取組を表彰するものです。



受賞の報告

南千住第二中学校レスキュー部では、平成25年度から、いざというときに支援が必要な高齢者の方々と部員が顔見知りになっておくことで、災害時にスムーズな避難を可能とすることを目的とした「絆ネットワーク活動」を開始しました。地域の支援を必要とする方に登録を呼びかけ、レスキュー部員が登録者の高齢者宅へ安否確認を兼ねて学校だよりや行事の案内などを届ける活動を行っています。

今後とも、災害で一人の犠牲者も出さない安全安心の街を目指して、区民の皆さまと連携、協力しながら取組を進めてまいります。

主  
な  
事  
業

## 防災イベント「あらBOSAI（あら坊祭）2016」が開催されました

3月5日、子どもやファミリー層をはじめとした幅広い世代が、楽しみながら防災の知識や技術を学べる防災イベント「あらBOSAI（あら坊祭）2016」が南千住野球場で開催されました。

これは、区立全中学校に創設された「中学校防災部」や、PTA、町会などが運営に携わり、来場者がイベントを通じて地域と顔の見える関係を作ることで、地域防災力の向上にも寄与するイベントです。当日の防災体験プログラムでは、紙食器づくり・応急救護体験など8つのコーナーを設け、中学校防災部の生徒たちがそれぞれのコーナーを運営し、多くの方にご参加いただきました。



防災部生徒の説明を聞きながら

## 5kW級業務用燃料電池試験PRセレモニーが行われました

区では、次世代のクリーンエネルギーと期待される水素エネルギーにいち早く着目し、その活用に取り組んでまいりました。そしてこのたび、3月6日、荒川総合スポーツセンターにおいて、自治体として全国で初めて5kW級業務用燃料電池実証試験機が設置され、そのPRセレモニーを行いました。



実証内容を説明する職員

都市ガスから取り出した水素と大気中の酸素を利用して発電・発熱させる今回の実証試験では、業務用燃料電池から発生した電気を1階フロアの照明に、熱をロッカー室のシャワー用温水の一部に使用します。

今後は、本実証試験の結果を踏まえ、公共施設への業務用燃料電池の導入可能性を検討するとともに、区民や事業者の皆様への水素エネルギーに関する啓発や燃料電池の普及に一層力を入れてまいります。

## 「奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会」が開催されました

3月12日、素盞雄神社で「奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会」が開催されました。荒川区の南千住が、松尾芭蕉の「奥の細道」の矢立初めの地であることから、子どもたちに「俳句」という日本の伝統文化の素晴らしさを知ってもらい、感性や表現力を育むことを目的として実施し、今回で7回目の開催となりました。



趣向を凝らした演出で俳句を披露

また、「奥の細道」結びの地である岐阜県大垣市とは俳句を通じて交流を行っており、今回の大会にも大垣市推薦の2組4名の小学生が参加しました。予選には217組ものチームから応募があり、荒川区俳句連盟の選考により、14チーム28名が3月12日の千秋楽（本選）出場を決めました。当日は大垣市の2チームも含めた16チーム32名が参加し、トーナメント方式で自作の俳句を詠み合い、荒川区の「こつき山」が「横綱」に選ばれました。

今後とも、「俳句のまち・あらかわ」を区内外に向けて広く発信し、俳句文化の裾野を広げてまいります。